

●ロローク

▼登場人物一覧

- ・美羽
- ・ななちゃん
- ・おとめちゃん
- ・なびたん
- ・？？？
- ・あゆコロちゃん

すてきな満月の夜。
華やかな舞踏会。

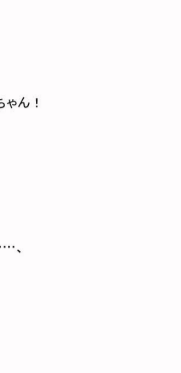
ゆるキャラたちと彼女のファンタジーは
シンデレラ城から始まった。

そう、これは……

——もう一つの美羽ちゃん物語——



ななちゃん王子「待つて……！ 待つて下さい！！
美羽姫！！」



美羽「ごめんさいっ、ななちゃん王子！
美羽は……、
美羽は、もう帰らなくちゃいけないのっ！！」

※美羽がななちゃん王子に遠いかけられているシーン

そう……、美羽は今、かわいかわいかにやんこお姫様。

ななちゃん王子と楽しくダンスをして
お話ししたけれど……。

もう帰らなきゃいけない。

だって、12時までに帰らないと、美羽の可愛い
にやんこお姫様の魔法は解けちゃって……

……普通の女の子に戻ってしまうから……。

ななちゃん王子「美羽姫——っ！」

ちなみに、美羽がだいだい大好きな人は、ななちゃん！

ななちゃん王子「名前が、七海一也だから
ななちゃんって美羽は呼んでる。」

美羽と同じ小学校に通ってるんだー。
シンデレラの世界でも、ななちゃんに会えるなんて……、
美羽ってば、とつてもるんらんらんかなのっ！

美羽「とっ……とにかくごめんさい！」

美羽を呼ぶ声に、つつい振り向きたくなっちゃう。

でも安心して、ななちゃん王子。

そろそろ、美羽のガラスのくつが片方脱げて、
それがきっかけで二人は結ばれるんだからっ！



美羽「えええっ？！」

美羽「なんで、こんなところにおきいわんちゃんか……！」

大きな犬「ウウー——っ！！」

美羽「このままじゃ帰れない……」

美羽「これじゃ物語と違うよっ！」

ななちゃん王子「美羽姫——っ！！」

どうしよう……、ななちゃん王子に追いつかれちゃう！

一先ず、隠れるのっ！

※近くの、しげみへ隠れる。

美羽「う～、どうしよう。
こま 困ったの～っ」



●キラッ

※その時、ひとすじの流れ星が見える。

美羽「あっ……、流れ星……！」

※ひとすじ流れた後に、更にたくさん流れ星が見えてくる。

美羽「すごい！
ロマンチックなのっ！」

※そのたくさんの流れ星が、美羽ちゃんのまわりを
取り囲み、くるくる回っている。

キラキラ輝き、とても幻想的なカンジを出す。

美羽「わーっ！ きれい——っ！！」

●キッツ！

その時、美羽の頭上から真っ白な光が漏れて、美羽ちゃんの前に
ネコのゆるキャラが現れる。



？？？「こんにちは、美羽ちゃん！」

美羽「わわわっ！
ネコさんが突然……！

そっ……、それにしゃべってるの！」

なびたん「ボクの名前はなびたん。
ボクは美羽ちゃんを助けるためにやってきた
しゃべるネコのゆるキャラだよ！」



美羽「ほっ、ほええ～っ！！？」

なびたん「これから起こる、色んなトラブルから
美羽ちゃんを助けるために協力するね！」

美羽「みっ……美羽を助けにっ？」

なびたん「うん！
美羽ちゃん。両手を出して！」

●ぼんっ！

※美羽ちゃんの手のひらの上に、本が出現する。

美羽「わわわっ！」

なびたん「この本は、ボクと一緒に
美羽ちゃんを助けてくれる魔法のアイテム『ついでくる』さ！」

美羽「ついでくる……？
あれれ。
何も書かれてない……真っ白なの」

なびたん「うん、その通り。

だって、この『ついでくる』は、これからの
美羽ちゃんの物語を1ページずつ
しるしていつてくれるんだもの。

それに、この本はいろんな悪い虫もつくってくれる！
美羽ちゃんど、たくさんのゆるキャラ達のね！」

美羽「美羽と……、ゆるキャラ達の……？」

なびたん「うん！
ねえ、美羽ちゃん。

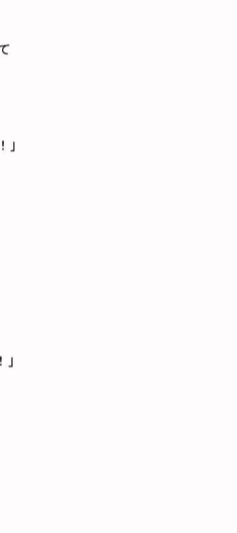
このシンデレラの世界のどこかに、ゆるキャラ達が
遊びに来てるみたい。
さが探してみよう！」

美羽「ほえ～っ！
ゆるキャラがここにっ？！」

※美羽ちゃんがきらきら探している
向こうのしげみから、物音が聞こえる。

●ガサガサッ！

※その物音のしたほうを覗いてみると
そこにはあゆコロちゃんがいた。



美羽「あーっ！ 見つけたのっ！」

※あゆコロちゃんは、どうやら夜の散歩歩をしていた様子。

なびたん「このゆるキャラは、神奈川県厚木市のゆるキャラ
あゆコロちゃんだよっ！」



美羽「ぶたさんのゆるキャラなのっ！
かわいいの～っ！」

なびたん「ふむふむ……、なるほど！」

美羽「なんなのっ？」

なびたん「シンデレラの世界に、あゆコロちゃんも
行ってみたかったので、とっても嬉しいBoo～！ っって
言ってるよ！」

美羽「ほへっ！
なびたんは、ゆるキャラの気持ちがわかるんだねっ！」

なびたん「えっへん！ 任せといてよっ！
ふむふむ……、なになに」

なびたん「さすがは、シンデレラのお姫様だね！
とってもかわいいBoo～！ っだって、美羽ちゃん！」

美羽「ありがどうなの～っ！
あゆコロちゃんも、頭の上のお魚さんがかわいいのっ！」

なびたん「鮎が乗っかってるんだ。
ありがどうBoo～！ っだって」

美羽「わーい！
ゆるキャラとお話するの楽しいの～っ」

●ピカッ！

※このなびたんの台詞のあと、
美羽ちゃん光り輝いている、『ついでくる』の本が
キラキラと光り出す。

美羽「わわわっ！
なっ……なんなの～っ～っ？！」

なびたん「怖がらないで、美羽ちゃん！
『ついでくる』のページを開いてみて！」

美羽「あーっ！
あゆコロちゃんがページに載ってるのっ！！」

なびたん「うん！ ゆるキャラと心が通じ合ったそのとき、
その『ついでくる』の本の1ページに記録されるんだ！

これであゆコロちゃんの色んな
情報を見ることが出来るよ！」

美羽「ほへー！ 美羽、ゆるキャラ博士になった気分なのっ！」

なびたん「こうやって、いろんなゆるキャラと
いっぱいお友達になつてね！」

美羽「うん！ お友達がいっぱい増えるって
素敵なことなのっ！」

ななちゃん王子「うっひゃあああっ！！」

大きな犬「ウウー——っ！！」

※奥のほうで突然、ななちゃん王子と、
大きな犬の声が聞こえる。

なびたん「大変だっ！
ななちゃん王子に何かあったみたい！
行こう！
美羽ちゃん！」

美羽「なっ……、ななちゃん王子がっ！
わ、わかったのっ！」

美羽「はいはい！ あゆコロちゃん！
またお話しよーなのっ！」

※がんばって、と手を振るあゆコロちゃん。

※急いでしげみから飛び出す美羽ちゃん。
その大きな犬は、まだその場所にいる。

しかも、ななちゃん王子を背かしてみたい。

美羽「ななちゃんをいじめちゃ駄目なのっ——っ！！」

ななちゃん王子「みっ……、美羽姫っ？！」

大きな犬「やい、美羽！」

美羽「えっ……？ その声は……」



※美羽がびっくりして、よくよく見ると、
その犬は、人間でしかも知り合いだった。

美羽「おとめちゃん！？」

この人は、いつも美羽を好き勝手いじめている、
意地悪おとめちゃん。

ななちゃんと同じく、美羽と同じ小学校に通ってる。
本名が、早乙女伶だから、おとめちゃん。

美羽「なんでここにっ……！
それに、なんで犬になっているのっ？」

おとめちゃん「オレがどこにしようが
勝手だる！
ちびっこ美羽！」

お前が着ると、せつかくそのドレスも
幼祖園のおゆき会の衣装に見えちゃうぜ！
あつははは！」

美羽「むむっ！
そんなことないもんっ！
美羽は今、かわいかわいお姫様もんっ！」

ななちゃん王子「みっ……美羽姫っ……！
その大きなしゃべる犬はいつたっ！？」

美羽「あ、いやっ……えーと……、
この人は、おとめちゃんって言って……
今は、犬だけ……！
ぜ……、全然知らない人なの……！
じゃなくて……、ただの犬なのっ！」

おとめちゃん「な～に言っただ！
おこちゃま美羽！
言ってることがめちゃくちゃだぜっ！」

ななちゃん王子「美羽姫がこんな、化け犬と
お友達だったとはっ……！
ひっ……、ひええっ……」

美羽「もう～っ～っ！
おとめちゃんが、ここにいちやだめなのっ！
このままじゃ、この物語がめちゃくちゃに
なっちゃう！」

おとめちゃん「オレがどこにしようが勝手だろっ！
この物語は、むしろオレの物語だ！
お前が出て行けっ！
わおお～んっ！！」

※美羽ちゃんめがけて、わんわんおとめちゃんが
突進してくる。

美羽「ひゃああああっ！」

※ギリギリで、かわず美羽ちゃん。
ゴロゴロと転がる。

美羽「いつてて……！」

おとめちゃん「ウウー——っ！
よくかわいたな……美羽……！
だが、次はそうはいかない……ウウー——っ！！」

どっ……、どうすればいいの……！？
このままじゃ美羽……

またいつものように、ただいじめられて……

なびたん「美羽ちゃん！」

美羽「！」

なびたん「本を……、『ついでくる』を開いてっ！
キミは、もう一人じゃないっ！
聞くだよ！
あゆコロちゃんのページを！」

そうだ……！

さっき、あゆコロちゃんとお友達になったとき……
なんだか、美羽はとっても勇気がわいてきたのっ……！

美羽「怖くない……、
美羽はもう、わんわんおとめちゃんなんか
怖くないっ……！」

美羽「こはっ
応援してくれるお友達が、たくさんいるんだからっ！！」

※「なびたんと、あゆコロちゃんのことを指している台詞。

●カッ！

●バサバサバサッ！

『ついでくる』が光り輝きだし、目まぐるしくページが動き
あゆコロちゃんのページを開きます。

●ポンッ！

※あゆコロちゃんのページから、1本のクレヨンが出現する。
受け取る美羽ちゃん。

美羽「こっ……、これは……！？」

なびたん「さあ、そのクレヨンで空中に原の絵を描いてみて！」

美羽「！」

なんだろう……、
まるで美羽、知っているみたいに……

※美羽ちゃんが、そのクレヨンで原の絵を描く。

●バアア……！（※扉が開いて、そこからあゆコロちゃんが飛び出す）

●ぼんっ！

美羽「あつ……、あゆコロちゃん！」

なびたん「このあゆコロちゃんは、このついでくるの本の記憶さっ！
さあ、美羽ちゃん！
今こそなるんだ！」

美羽「えっ……！？」

なびたん「ゆるキャラの……魔法少女に！！」

●カッ！

※美羽ちゃんが光り輝きだし、変身シーンが始まる。

美羽「ツィンクル ツィンクル ダイヤモンド！」

パンッ！（※ここであゆコロちゃん和ハイタッチ）

美羽「あゆコロちゃん！」

※その瞬間、美羽ちゃんを包み込んでいたダイヤモンドが
キラキラと砕け散り、あゆコロちゃんのコスチュームを着た
美羽ちゃんがさっそうと登場する。

美羽「ほえほえ～っ～っ！
とつてもおちやめで素敵なのっ——っ！」

なびたん「これで、美羽ちゃんには
あゆコロちゃんの能力が伝わったよ！」

おとめちゃん「くっ……！
小さかしい……！」

美羽「くんくん。なんだか……
とつても鼻が利くようになったみたいなの……！」

そうだよ、だって美羽は今、あゆコロちゃんと
ひとつになったからなの。

！

そうだ！

美羽「わんわんおとめちゃん！
勝負なのっ！

おとめちゃん「なにっ！？」

美羽「この森は、どうやらおいしいキノコがたくさん採れるっぽい
とこさきの美羽にはわかるのっ！」

おとめちゃん「だからなんだよ

